

【環境対策について】

問14 環境問題への取り組みの中で特に重要なこと

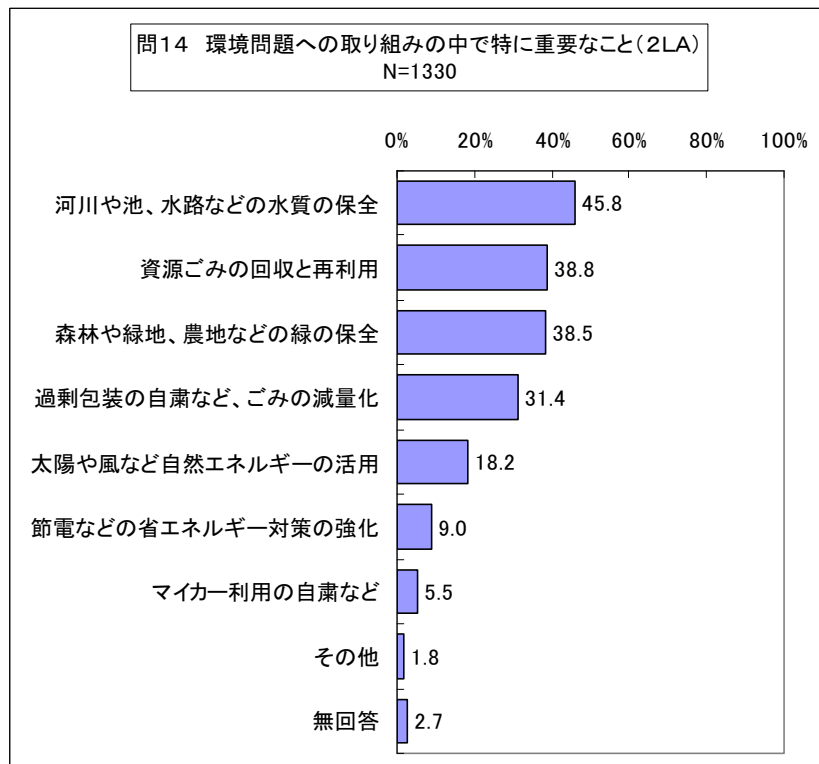
あなたが環境問題の取り組みの中で特に重要と思われるものを次の中から2つまで選んで、番号に○印をつけてください。

○環境対策の重視点は、“3R（ごみの量を減らす・繰り返し使う・資源として活かす）”のほかに“水質保全”や“緑の保全”が目立つのが特徴的です。

環境対策の重視点では、「河川や池、水路などの水質の保全」が約5割で、最も高くなっています。本市の豊かな自然の象徴のひとつとして、“水”への関心が高いことがうかがえます。

第2位～4位は「資源ごみの回収と再利用」、「森林や緑地、農地などの緑の保全」、「過剰包装の自粛や生ごみ処理機の活用などごみの減量化」が同程度で続き、循環型社会のための3R（“リサイクル” “リデュース” “リユース”）が定着してきていると言えそうです。

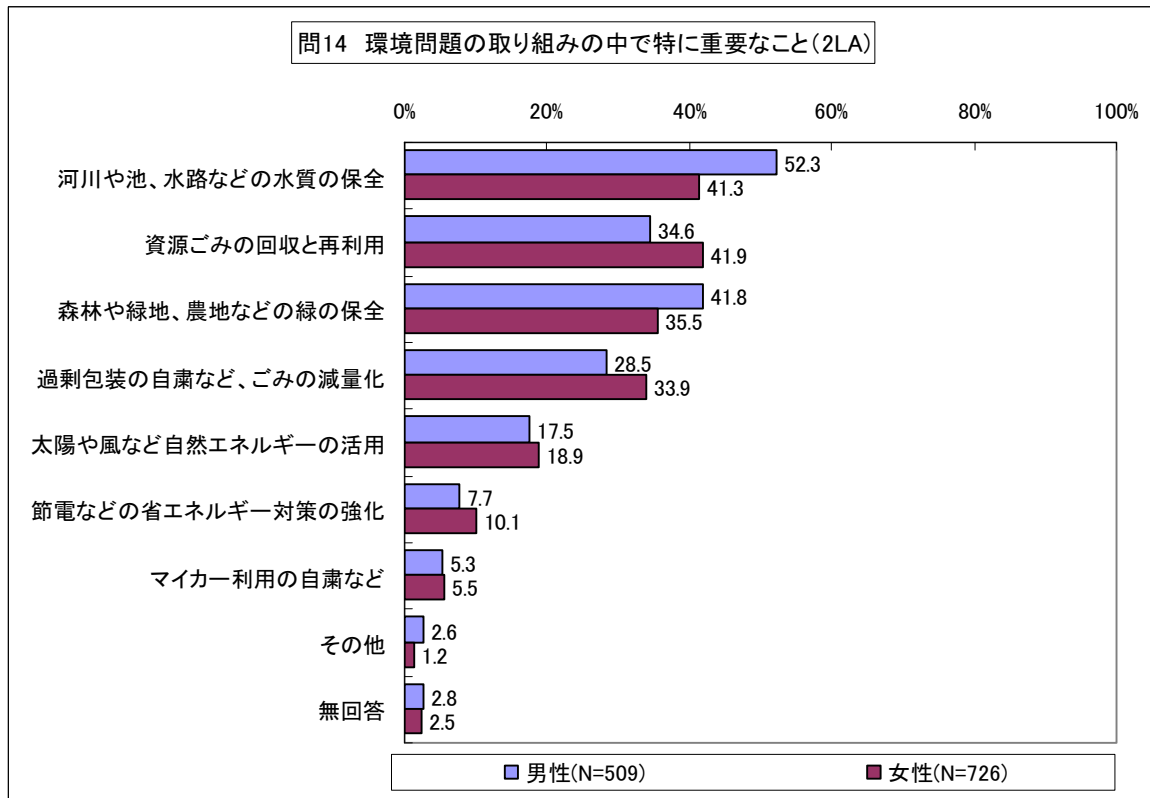
“水質保全”や“緑の保全”への関心が高いのが特徴的で、他の設問と同様の傾向がみられません。



<p>〈その他〉</p> <p>①ごみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 粗大ごみの定期収集を希望する。 ● 産廃処分場を造らせない。 ● 有料でもいいので粗大ごみ、不燃ごみの回収に来て欲しい(指定場所に来るよう)。 ● 不燃物等の無料回収。 ● 市として資源ごみ回収を月1回位行う。 ● 不燃物、粗大ごみ等の収集日の設定。 ● 不燃ごみ、粗大ごみの回収金額の低下。 ● 不燃ごみの無料収集をして欲しい。 ● ごみ処分に予算増やし不法投棄の防止。 ● ごみ処理場の確保。 ● 産業廃棄物の焼却施設の建設。 ● ビニール、缶等を路わきに捨てることへの指導 	<p>②公害、水質保全など</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 畜産公害(2) ● 自宅での焼却を防止する。 ● 悪臭対策。 ● 川にごみを捨てないこと。 <p>③自然環境、水質保全、その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 護岸工事をしない。(2) ● 水、空気、土地を守ること。 ● 1～7までがすべて重要。 ● 不法投棄など山を守る取り組みによる水質の保全 ● 1～7それぞれ個人、企業の意識強化 ● 犬の糞の適正な処理
--	--

<性別>

性別を問わず、“水質保全”や“資源ごみの再利用”、“緑の保全”は、上位を占めています。また、「男性」では、“水質保全”が過半数を占め、回答が集まっているのに対し、「女性」では、“水質保全”や“資源ごみの再利用”、“緑の保全”、“ごみの減量化”などに回答が分かれます。



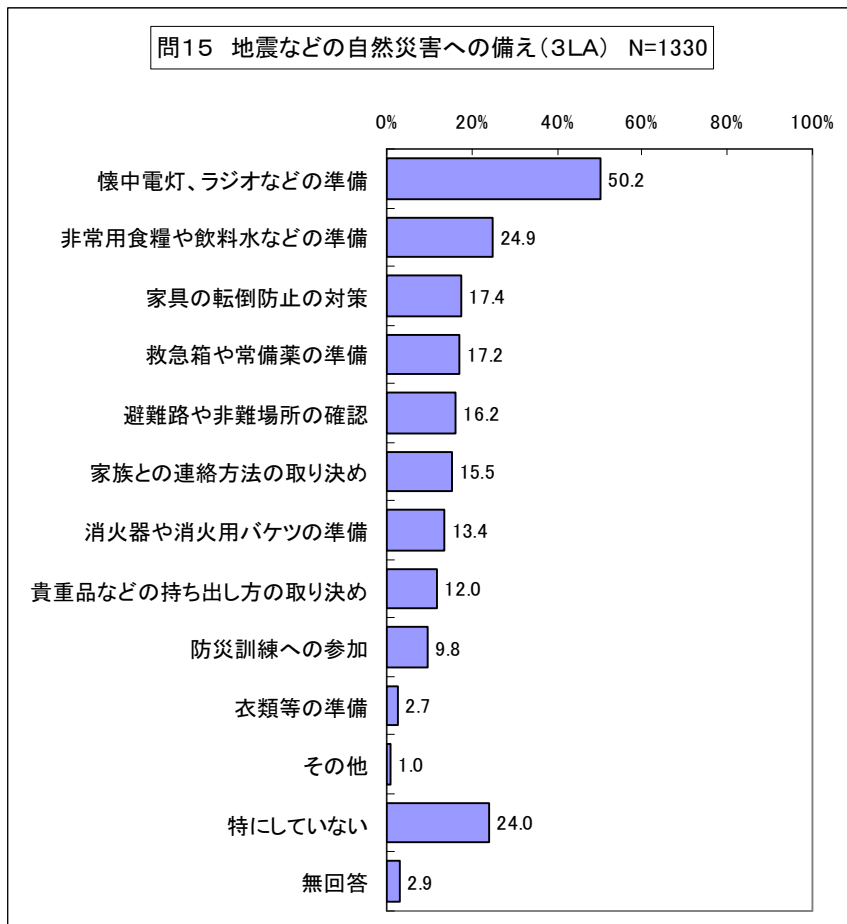
問15 地震などの自然災害への備え

あなたは、地震などの自然災害に備えて、主にどのようなことをしていますか。次の中から3つまで選んで、番号に○印をつけてください。

○市民の自然災害への主な備えは、“懐中電灯・ラジオ” “非常用食糧・飲料水” “家具等の転倒防止”、ただ4人に1人は“備えなし”です。

自然災害への市民の備えとしては、「懐中電灯、ラジオなどの準備」が5割に達し、群を抜いています。言い換えると、これらは防災対策以外でも利用頻度の高い機器として用意されていると考えられます。

「非常用食糧や飲料水などの準備」や「家具の転倒防止の対策」、「避難路や避難場所の確認」といったいわゆる防災対策は2割前後です。また、「防災訓練への参加」は1割にとどまっているほか、4人に1人は「特にしていない」と回答しています。



<その他>

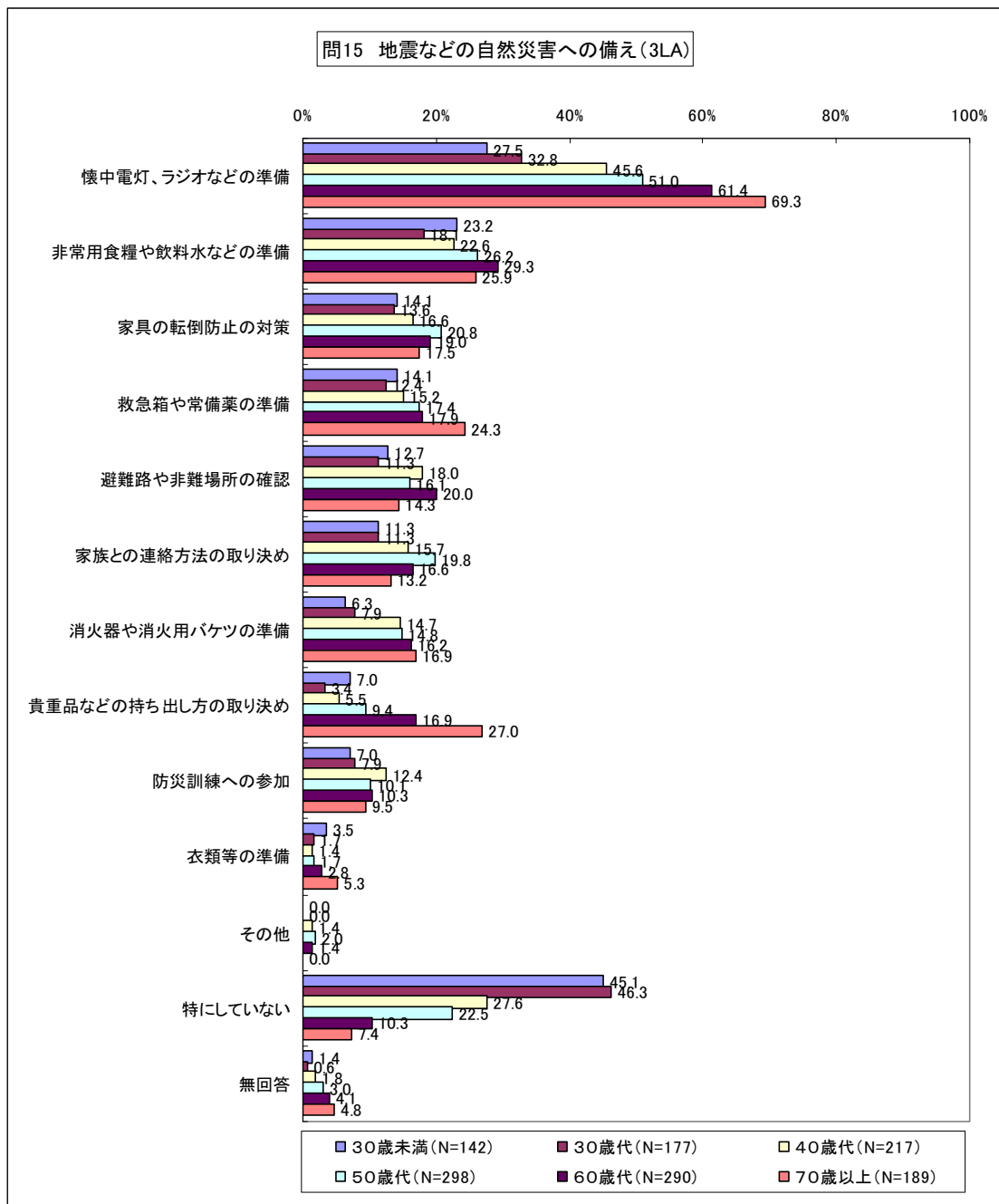
- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● かまどなどの準備 ● 建て替え ● 耐震・防震住宅など ● キャンプ用品の収集 | <ul style="list-style-type: none"> ● 飲料水の容器 ● あまり備えていない ● 今後したい |
|--|--|

<年齢別>

いずれの年齢階層でも「懐中電灯、ラジオなどの準備」の割合は最も高く、手軽にできる防災対策として年齢を問わず普及しています。

年齢階層が高まるにつれて、「懐中電灯、ラジオなどの準備」や「貴重品などの持ち出し方の取り決め」、「救急箱や常備薬の準備」の割合は高まり、「特に何もしていない」は低下しています。なお、他の防災対策の割合については、年齢階層による大きな差はみられません。

高齢になるにつれて、有事に備えて、少なくとも「懐中電灯、ラジオなどの準備」は備えておくべきという安全上の意識が定着しているとも言えそうです。



<家族構成別>

「ひとり暮らし」や「夫婦のみの世帯」では、「懐中電灯、ラジオなどの準備」や「非常用食糧や飲料水などの準備」の割合が高く、「特にしていない」は低くなっています。また、「夫婦のみの世帯」は全般的に防災対策への関心が高くなっています。多世代同居の場合、回答者以外の家族が対応しているとも考えられます。

なお、「懐中電灯、ラジオなどの準備」に集中していることから、他の対策の普及が課題となります。

